✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　ヒノキ雄花が大爆発？

本格的な冬がやってきました。「来年の話をすると鬼が笑う」と言いますが、すでにマスコミにも取り上げられているように、来春は花粉の飛散量が多くなると予想されています。

スギやヒノキの花粉量に、前年夏の気象条件が大きく影響することは知られており、今年の 7 月、8 月とも全国的に気温が高く、日照時間も多かったことからも、影響の大きさを想像するに難くありません。

筆者は来春の花粉飛散予想を作成するため、11 月に入ってから各地でスギやヒノキの雄花観察を行っているところですが、来春は、スギ花粉だけでなく、ヒノキ科の花粉も非常に多くなりそうな兆候を示しています。

今春はスギ、ヒノキ科とも花粉飛散量は少なく、特にヒノキ科の花粉は非常に少なく、4 月を過ぎて花粉症の症状がやわらいだ方もおられたと思います。これは、今春 2 月から 3 月にかけて低気圧の通過に伴う降雪がしばしばあったため、ヒノキの雄花が十分に成長できなかったことによるものです。スギは年末には雄花が完成し、花粉がぎっしり詰まった状態になりますが、ヒノキは開花直前に雄花が急成長します。ちょうどその時に降雪の影響を受けたため、飛散量の減少につながったようです。しかし、植物には豊作と凶作の周期性があるということが知られています。すなわち、今春はスギ、ヒノキともにあまり花を着けなかったことから、今年の夏から秋にかけてはスギ、ヒノキとも実はあまり着けていません。そのため、実に供給する養分はあまり必要ないことから、来春のために花に養分を回そうということになって、雄花、雌花ともたくさん着けることができると考えられます。

11 月後半、東京都の多摩地区と山梨県にスギやヒノキの雄花の着き具合を見に行ってきたところ、紅葉シーズンはそろそろ終わりとは言え、標高の低い多摩や甲府盆地縁辺の里山では今が見頃と紅や黄、緑と色とりどりでした。しかも、楓の木の上部梢近くは濃い赤色で中程の枝は橙と、直接大気にさらされている部分ほど色鮮やかで、一本の木で赤から橙へと連続的なグラデーション模様となっていました。

JR 青梅線軍畑北側の山里風景、紅葉の真っ盛り

山梨県市川大門付近のヒノキ林で雄花の観察
葉先の白い部分が雄花

前頁の写真は、甲府盆地の南縁に位置する市川大門近くで撮影しました。この季節、ヒノキの雄花は葉を手にとって観察しなければわからないほど花を見つけにくいのが通常です。ところが、写真のヒノキの葉先には白みがかった粒が明瞭です。これがヒノキの雄花で、年を越してやがて暖かくなり始めると、褐色に変色します。一方、雌花は現段階では葉と区別がつかず、写真ではほとんど視認できません。さすがに都市部の公園ではスギの木はあまり見られませんが、ヒノキは結構植えられています。暖かな冬の休日に公園へ散歩に出かけた際は、ぜひヒノキの葉を手にとって観察してみてください。与えられた気象条件をうまく利用しつつ、子孫の繁栄のために目立たない花を咲かせようとしている木のけなげな生き様が観察できると思います。その活動を憎々しげに眺めるか、愛おしく感じるかは、「花粉症」であるかないかでずいぶんと異なったものになりますが…。

ちなみに筆者はまだ花粉症を発症していませんが、子供の頃は喘息持ちで、最近は寒冷湿疹というアトピー患者ではあるので、カウントダウンに入っているような気もいたします。

（財団法人気象業務支援センター振興部専任主任技師　鈴木基雄）